

全国自死遺児500人調査 第2回中間報告

令和8（2026）年3月21日

岡山県立大学 保健福祉学部 現代福祉学科 准教授

京都大学 医学研究科 客員研究員

大倉 高志

本日の報告内容

①調査の概要

②中間報告

①調査の概要

0～19歳の時期に自殺で親やきょうだいを亡くした子どもに焦点を絞った全国調査

①量的研究によるオンラインのアンケート調査

- ・クラウドファンディングによって得られた資金を活用
- ・2024年夏に研究を開始。2025年4月にGoogleフォームによるアンケート調査を開始。500名の方々から回答を得るまで継続

②質的研究によるオンラインのインタビュー調査

- ・インタビューに応じてもよいという回答者の皆様の中から独自の基準に基づき対象者を選定
- ・50名を目標に聞き取り調査を依頼する予定

本調査の主な研究課題

【研究課題①】

遺された親や家族から、子どもへの自殺の事実や死因などの望ましい伝え方

【研究課題②】

遺された親や家族から、子どもへの家族の遺体の望ましい対面の仕方

【研究課題③】

親や家族の自殺現場に遭遇し目撃してしまった子どもへの望ましい支援のあり方

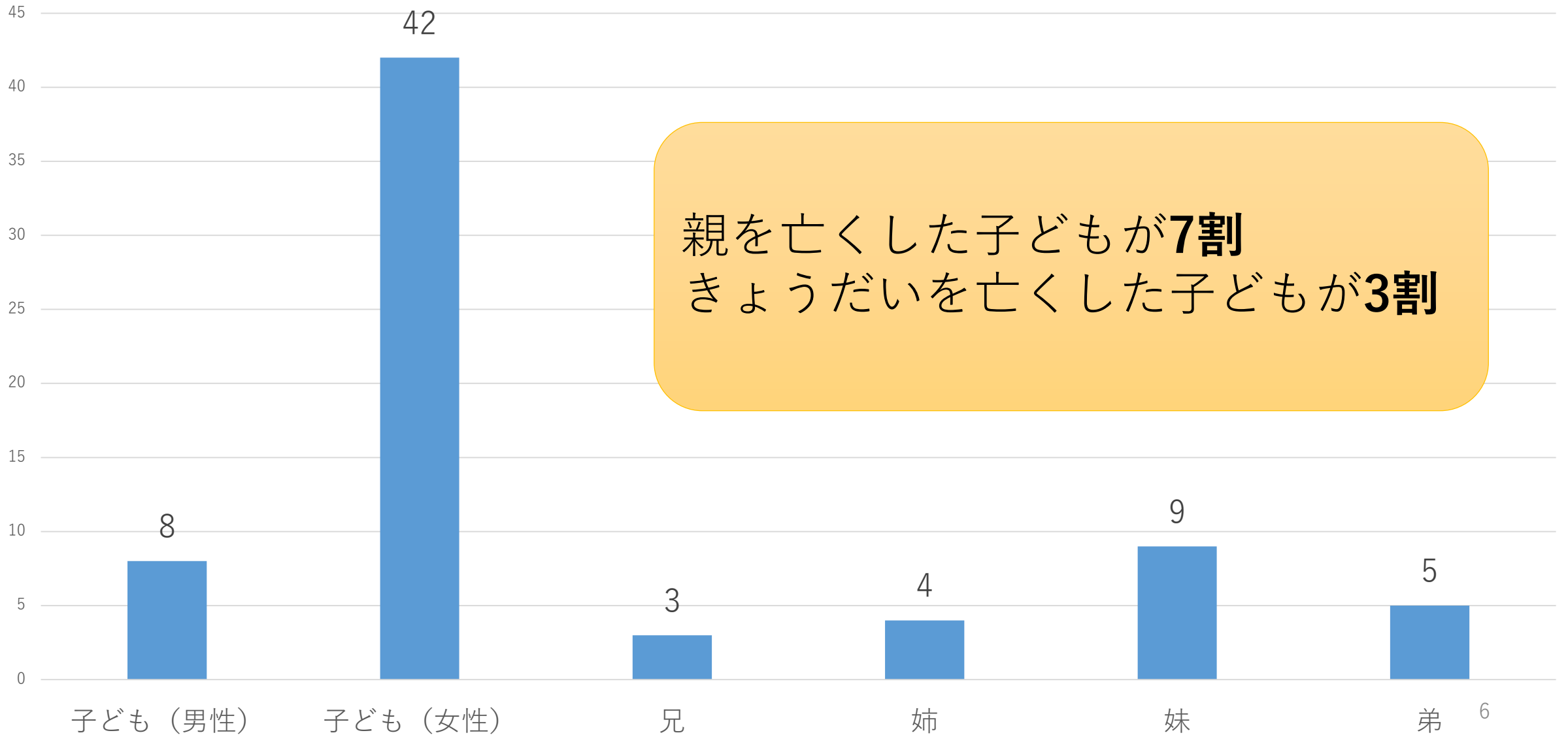
⇒ 以上のほか、

- ・自殺による死別後に遺児へのサポートが届いていない現状
- ・子どもにとって自殺がどのような影響を及ぼしたかという実態を明らかにし「自殺で遺された子どもへの支援方法」を提示

②中間報告

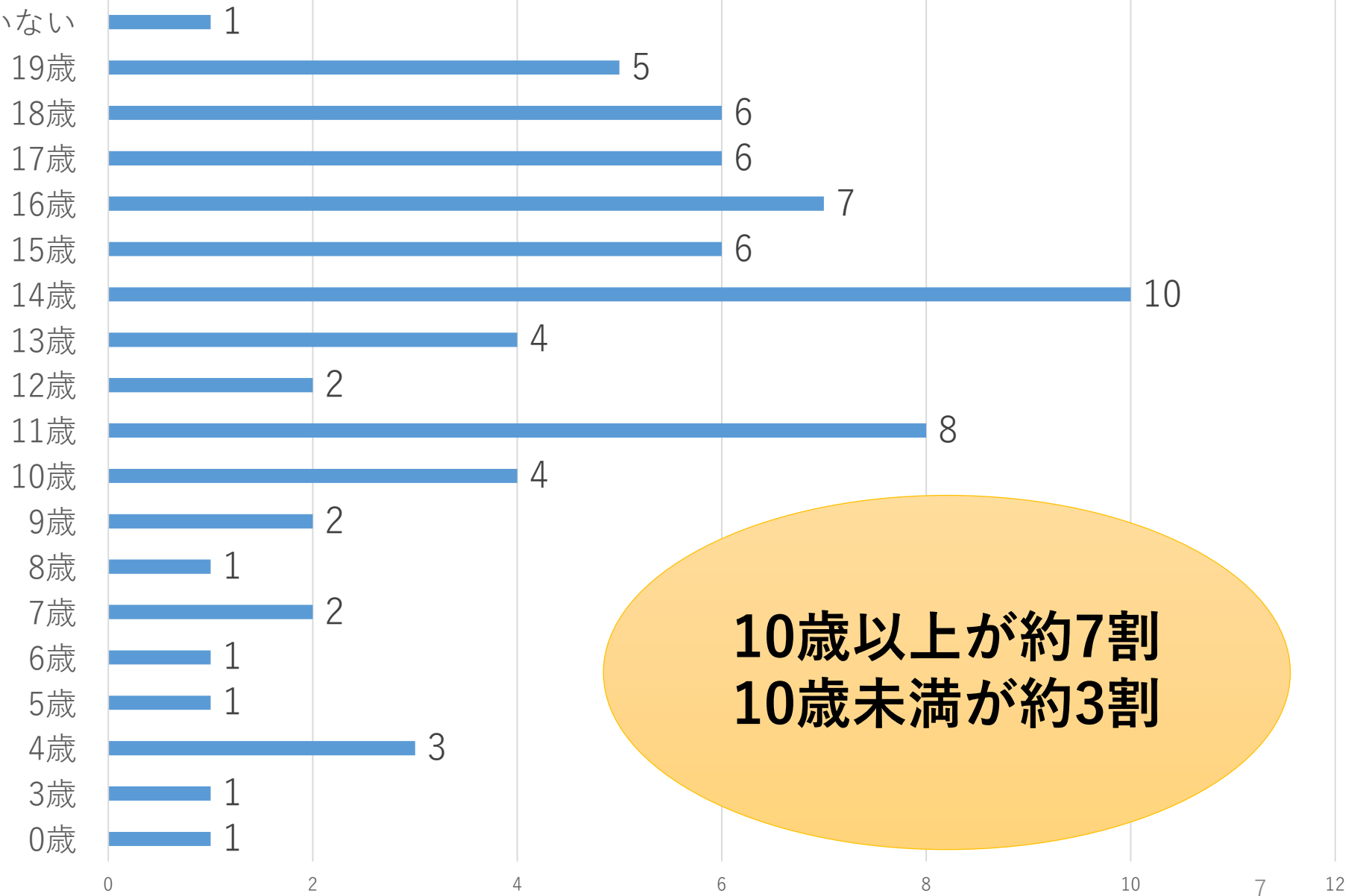
(2026年2月11日までの71人の回答を集計。単位：人)

A-1.亡くなられた方（故人）から見たあなたの 続柄を教えてください

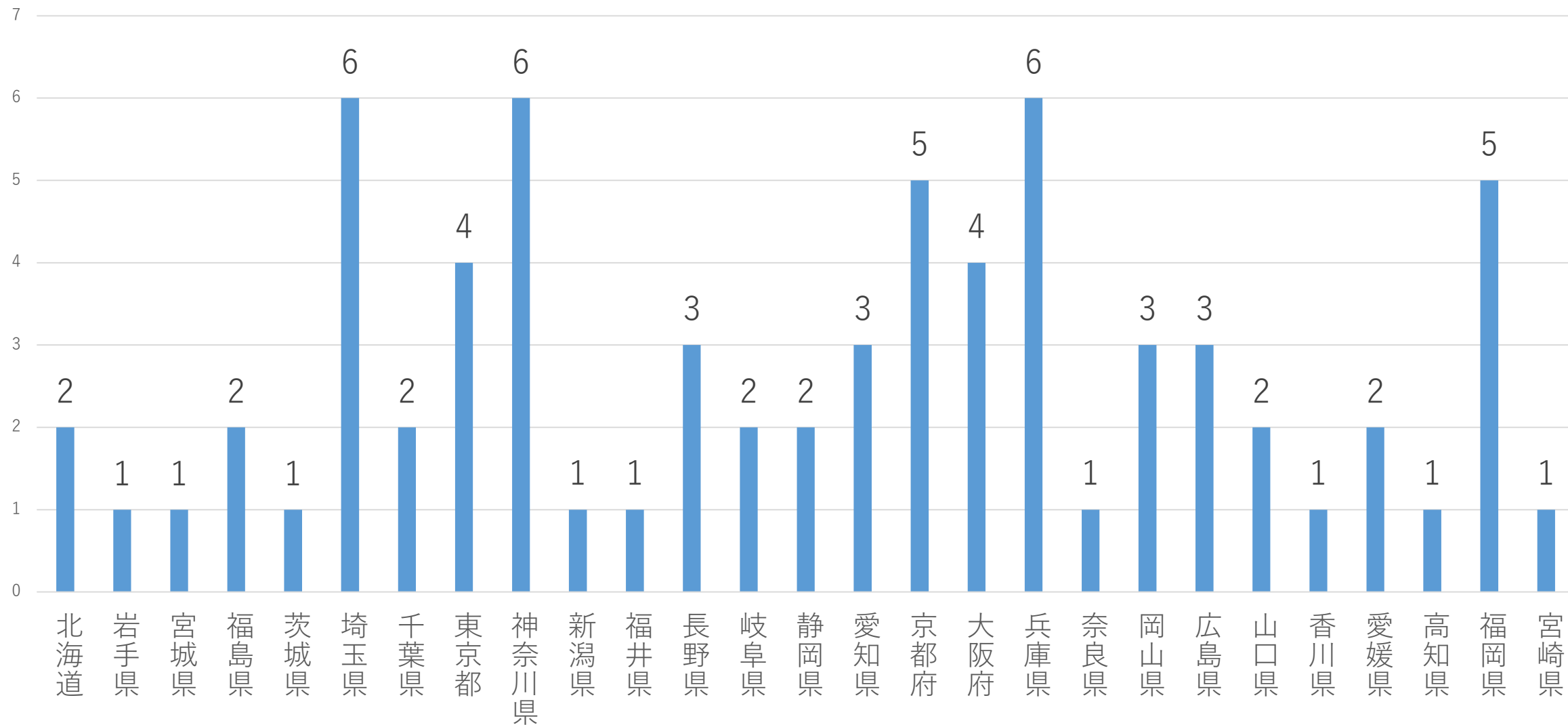


A-8. 死別時のあなたのご年齢をお聞かせ下さい

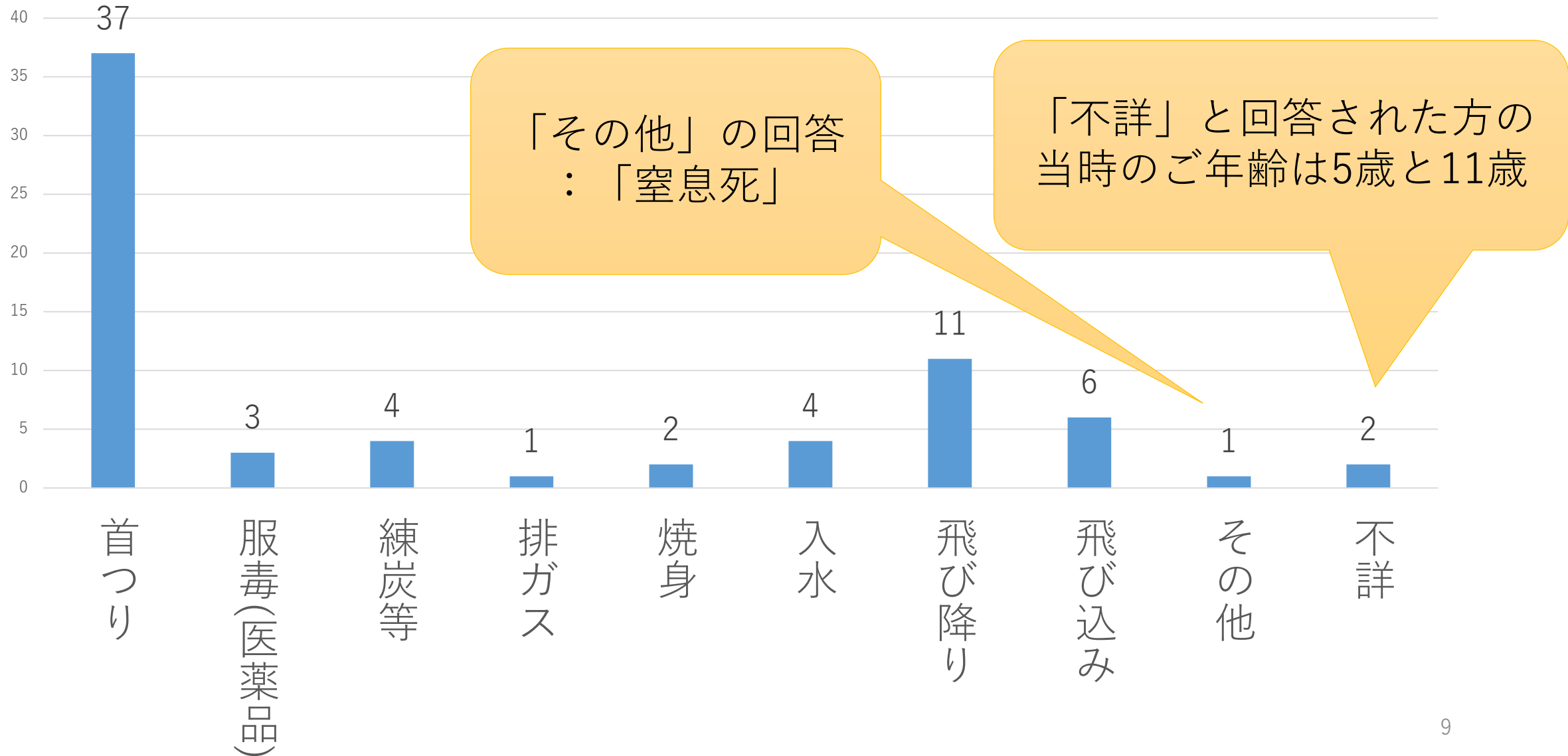
19歳未満だが、はっきりしていない



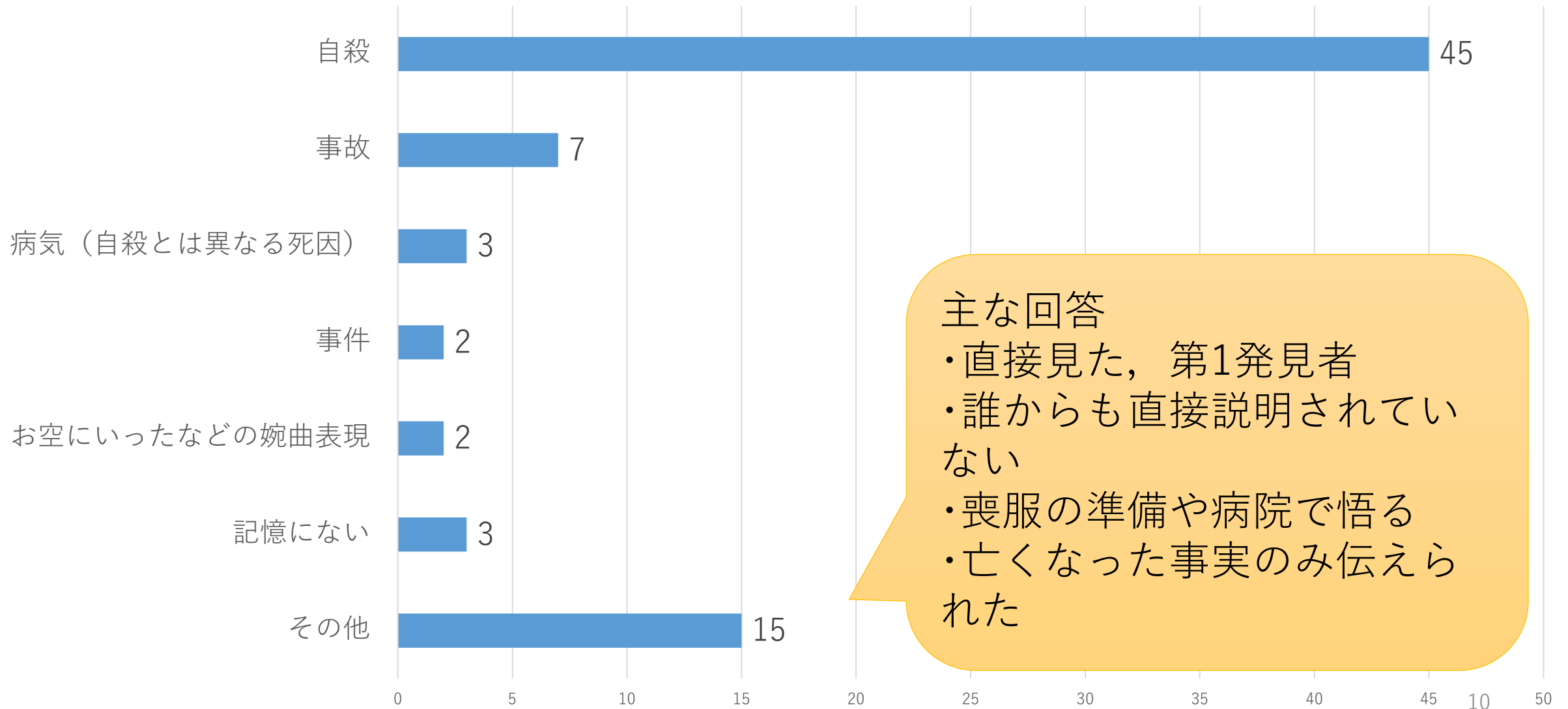
B-3. 死別時に故人が居住していた都道府県を 教えてください



B-4. 故人が亡くなられた自殺の手段を 教えてください



B-6. 最初に故人の死についてどのように知らされましたか（複数回答）



主な回答

- ・直接見た，第1発見者
- ・誰からも直接説明されていない
- ・喪服の準備や病院で悟る
- ・亡くなった事実のみ伝えられた

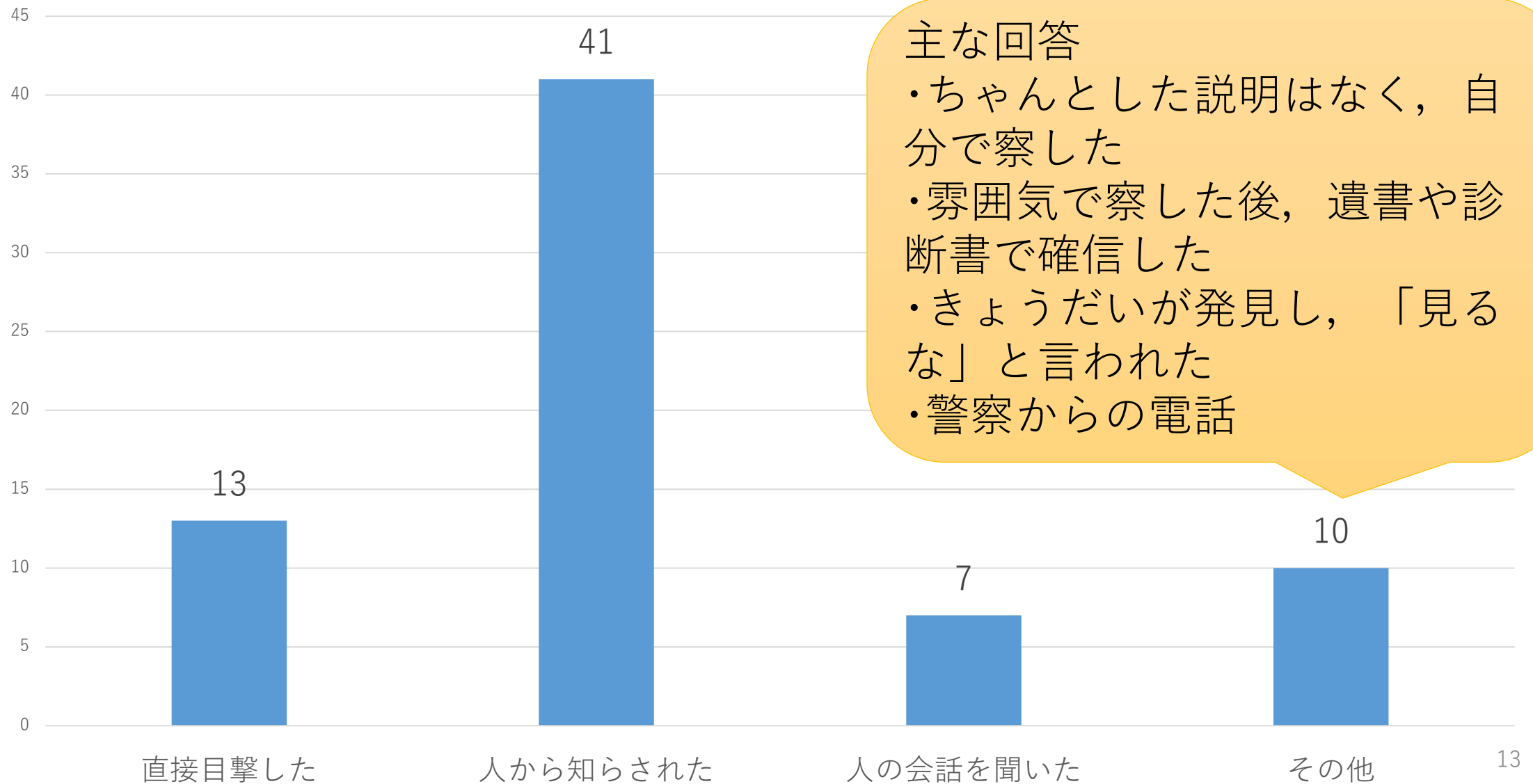
B-6の回答者の当時の年齢

- 病気（自殺とは異なる死因）→0歳， 10歳， 12歳
- 「お空にいった」などの婉曲表現→3歳， 5歳
- 記憶に無い→4歳， 7歳， 9歳

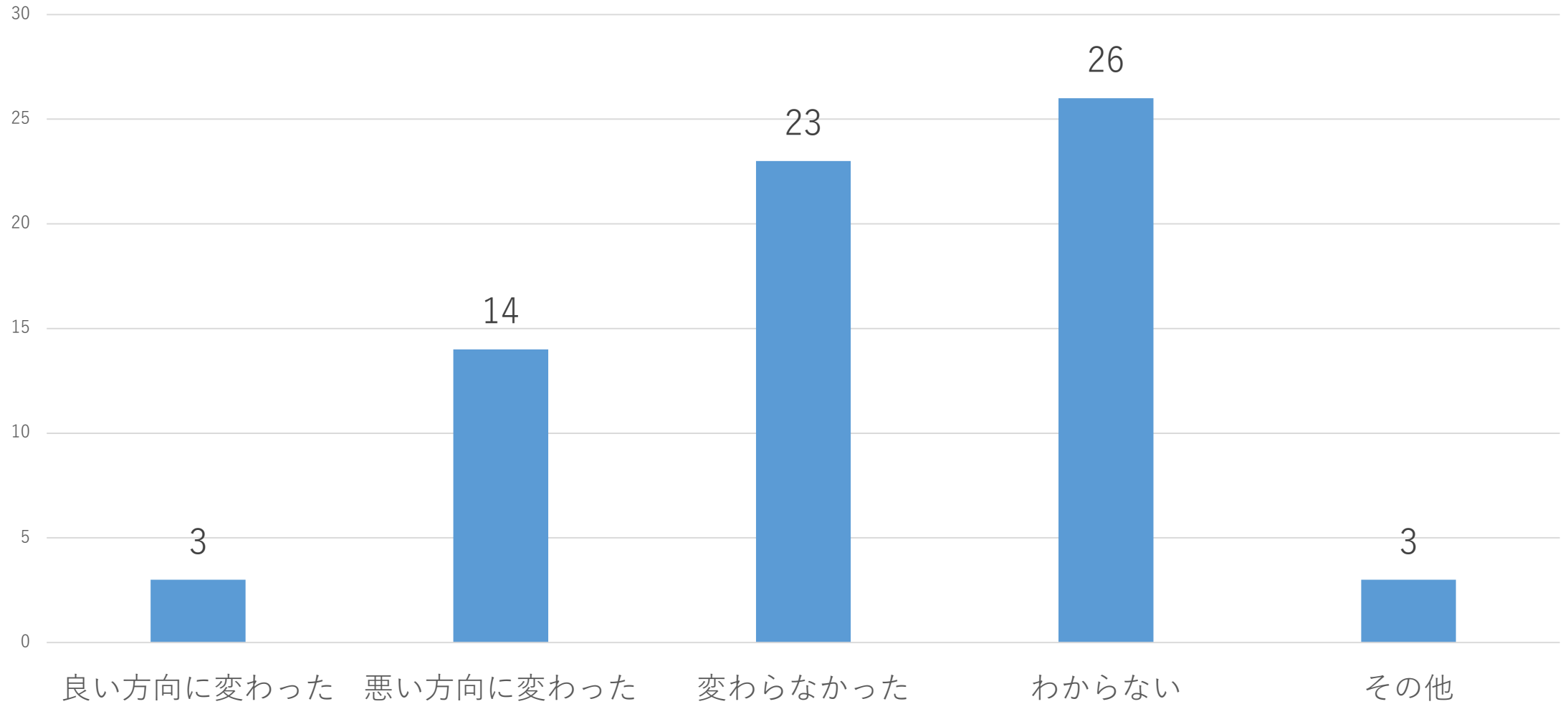
B-6の事故・事件と回答した人と自殺手段

- 事故：首つり，服毒（医薬品），入水，
飛び降り，飛び込み，不詳
- 事件：首つり，飛び込み

B-8. 自殺という死因について「どのような形」で 知りましたか



B-12. 知る前と知った後で家族の関係は 変わりましたか



B-13-1. 「良い方向に変わった」と回答した方にお聞きします。家族関係にどのような変化があったか差し支えなければお答えください。

○主な回答の要約

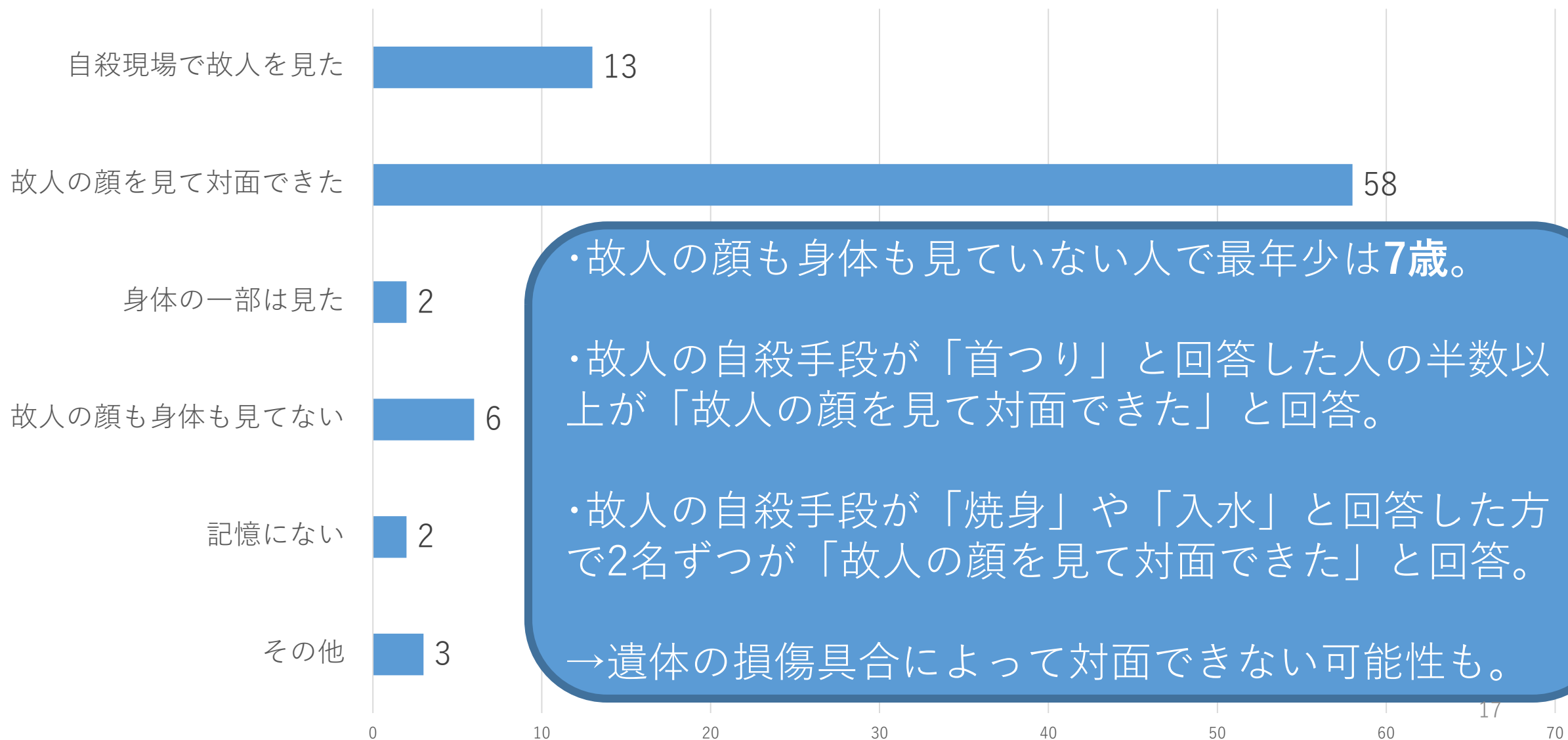
- 母の苦しみが軽くなった
- ADHDで掃除が苦手な母が亡くなり，衛生面が良くなった
- 両親の喧嘩が減った（きょうだいを亡くした遺児の回答）
- 互いを思いやれるようになった

B-13-2. 「悪い方向に変わった」と回答した方にお聞きします。家族関係にどのような変化があったか差し支えなければお答えください。

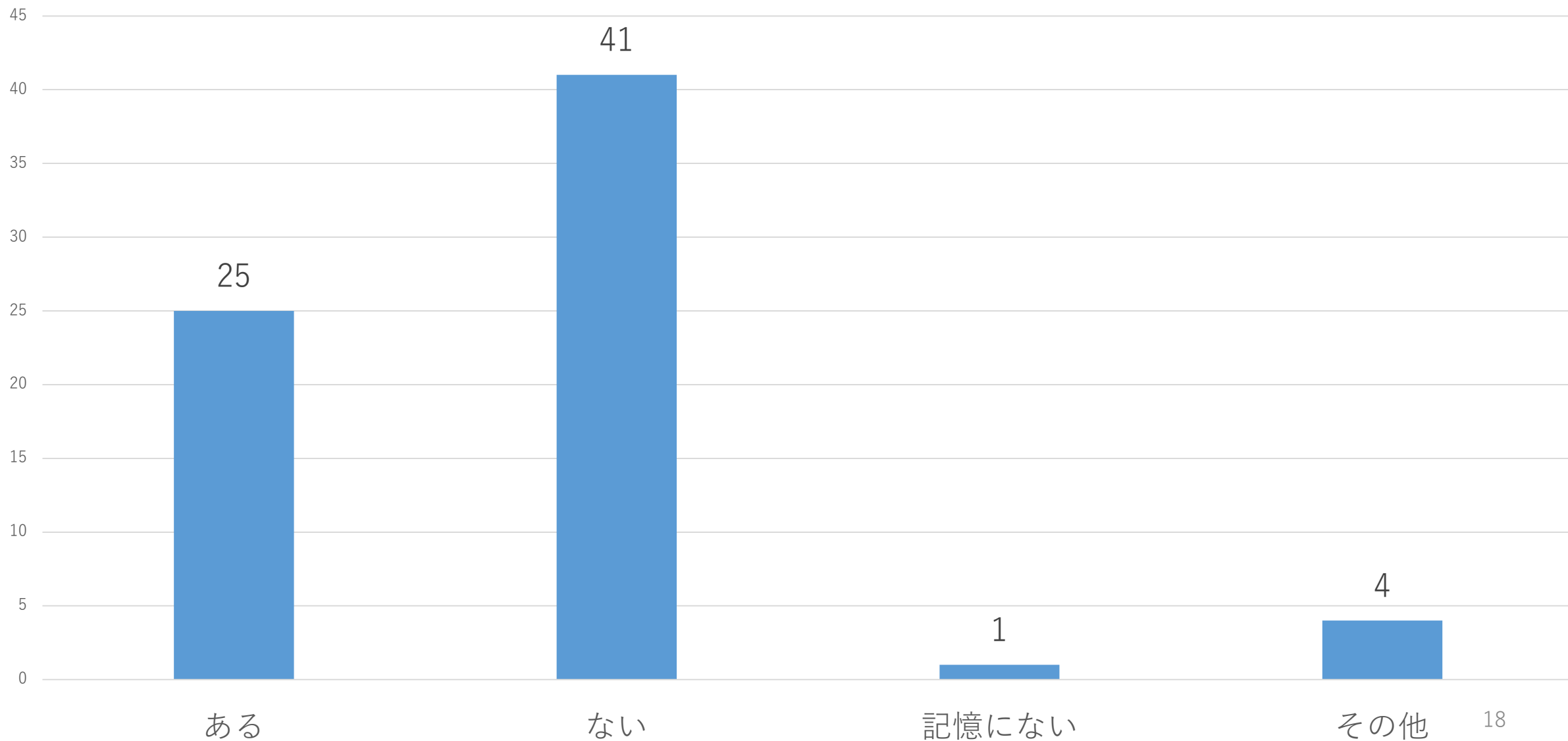
○主な回答の要約

- 自分が反抗的になった
- 家族と関係が悪くなった，音信不通になった
- 両家が互いに互いを責め合うようになった
- 家庭崩壊
- 故人の話がタブーになった
- 会話や笑顔が減った
- 互いの依存度が増した

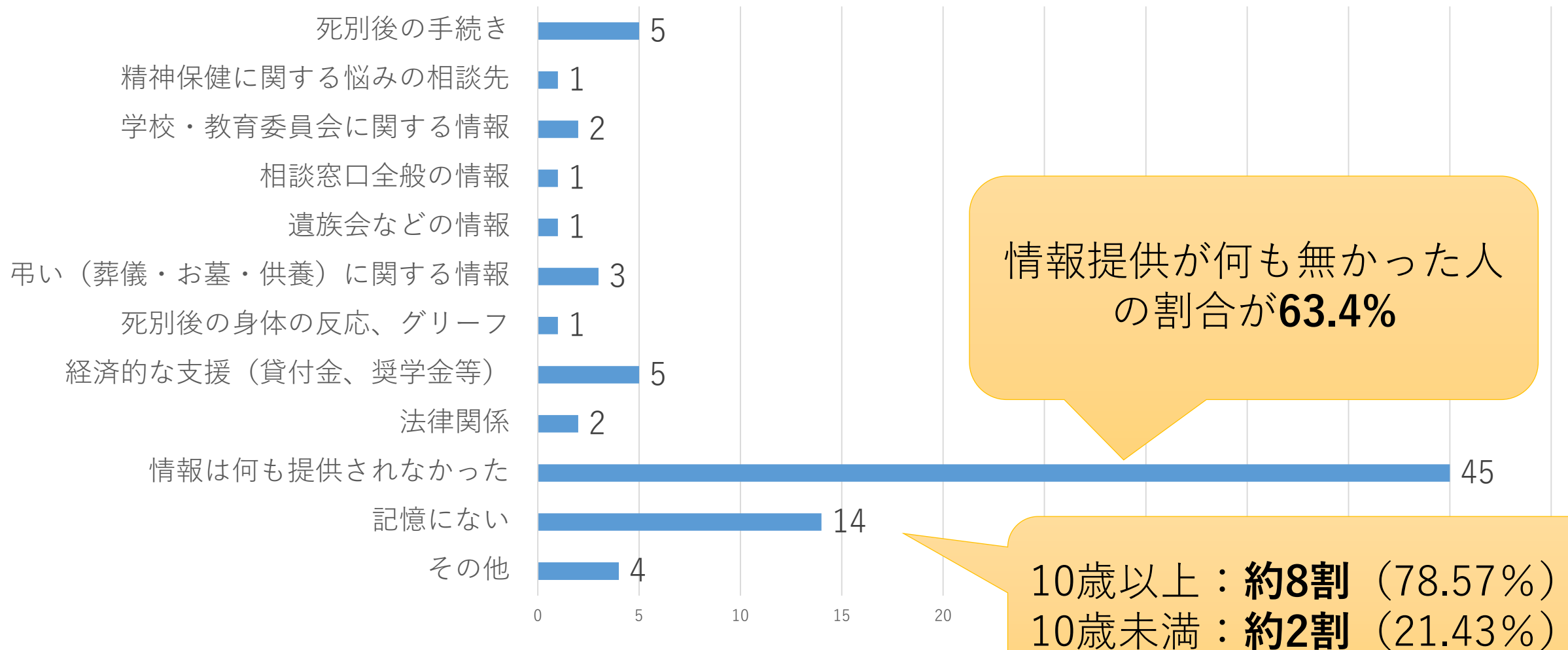
B-14. 自殺発生直後から火葬までの間に故人と一度でも対面できたかを教えてください（複数回答）



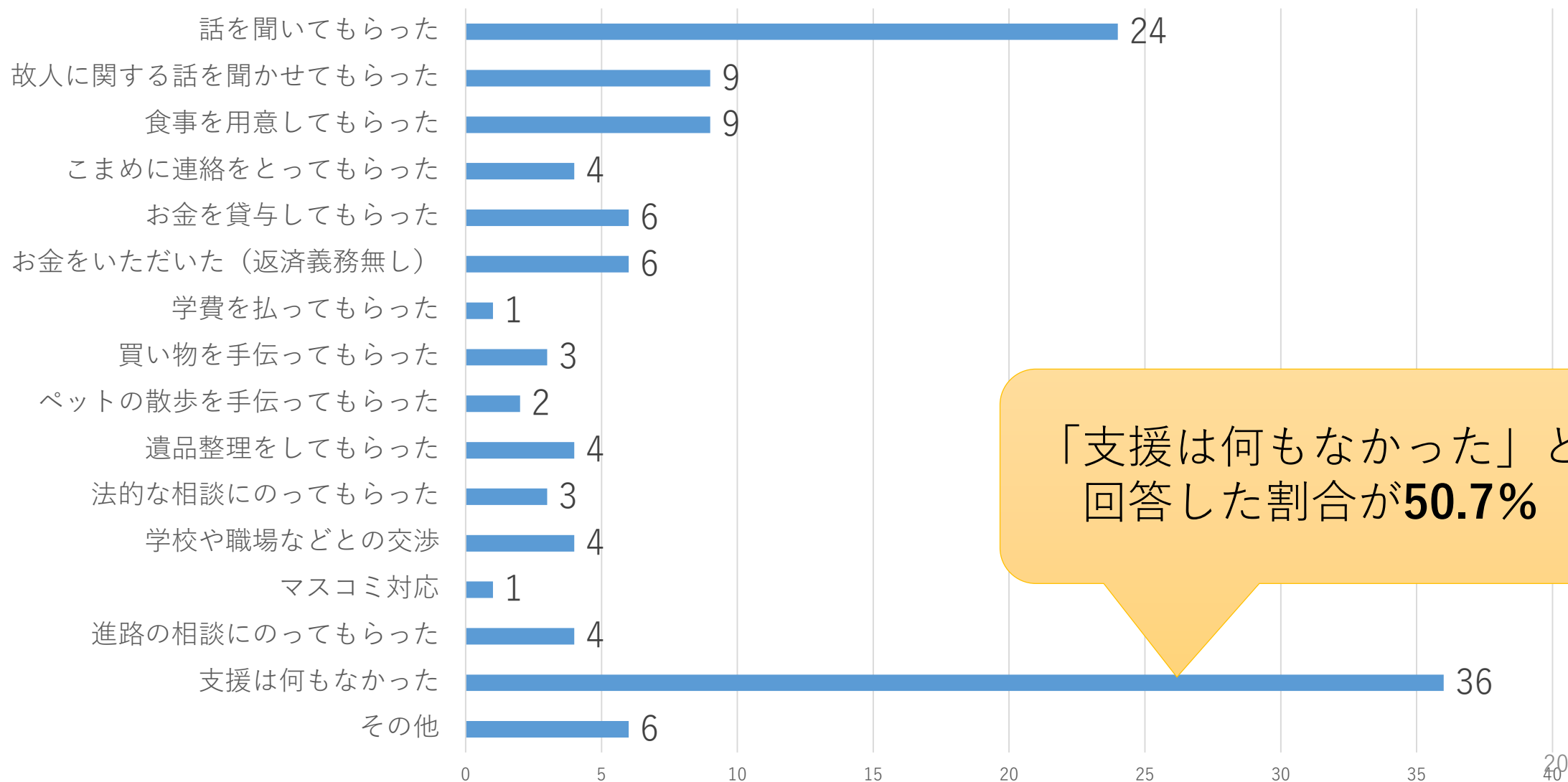
B-15. 死別の影響として心や身体の不調により医療機関を受診された経験はありますか



B-16. 死別後に情報提供を受けた場合は どのような情報を提供されましたか（複数回答）

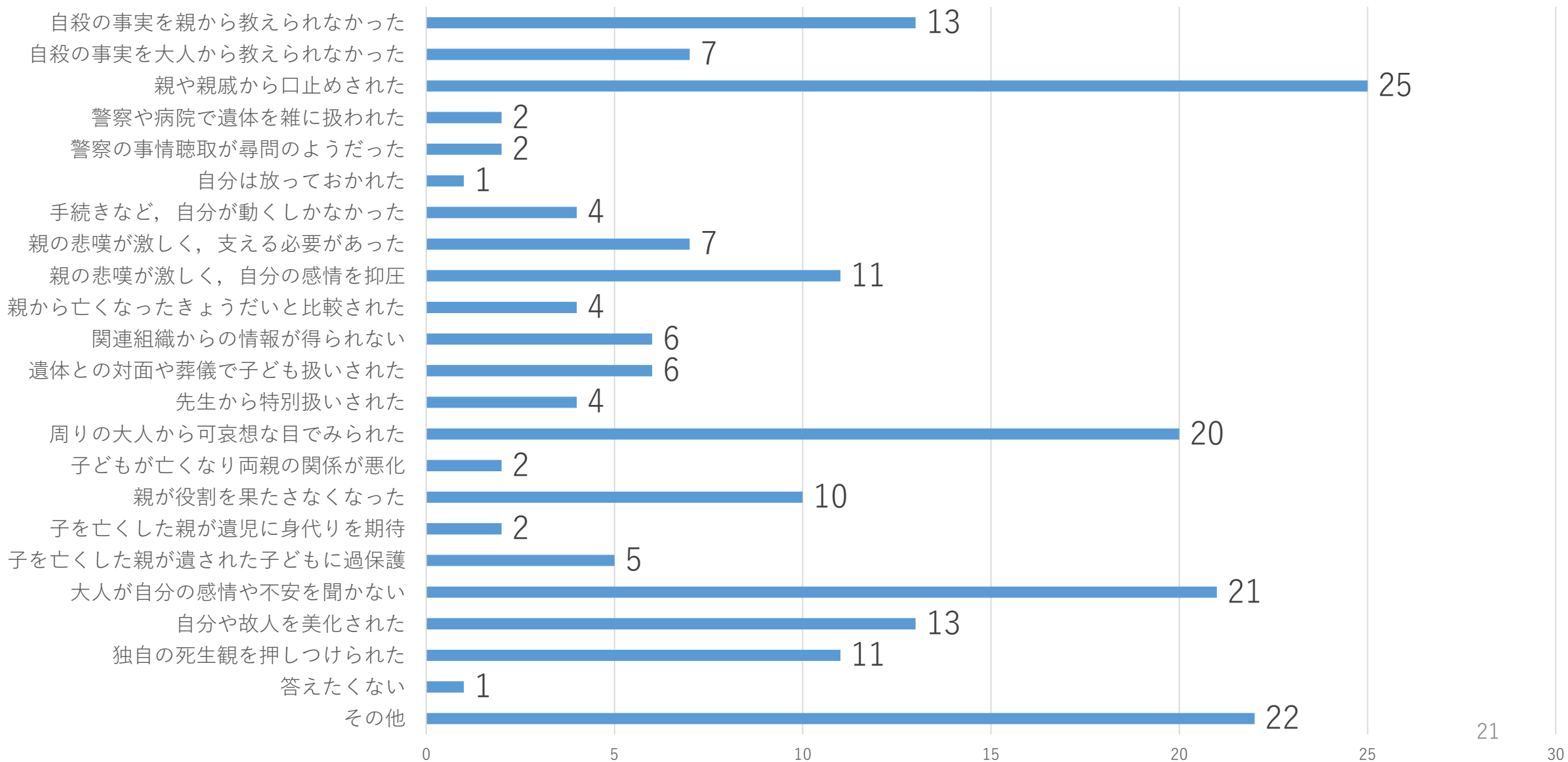


B-18. 死別後に支援があった場合、その支援は どのようなものでしたか（情報提供以外）（複数回答）



B-20. 死別後に、家族や親族、関係者とのやりとりで

気になったこと、嫌だったことはどのようなことでしたか（複数回答）



B-20の上位3項目

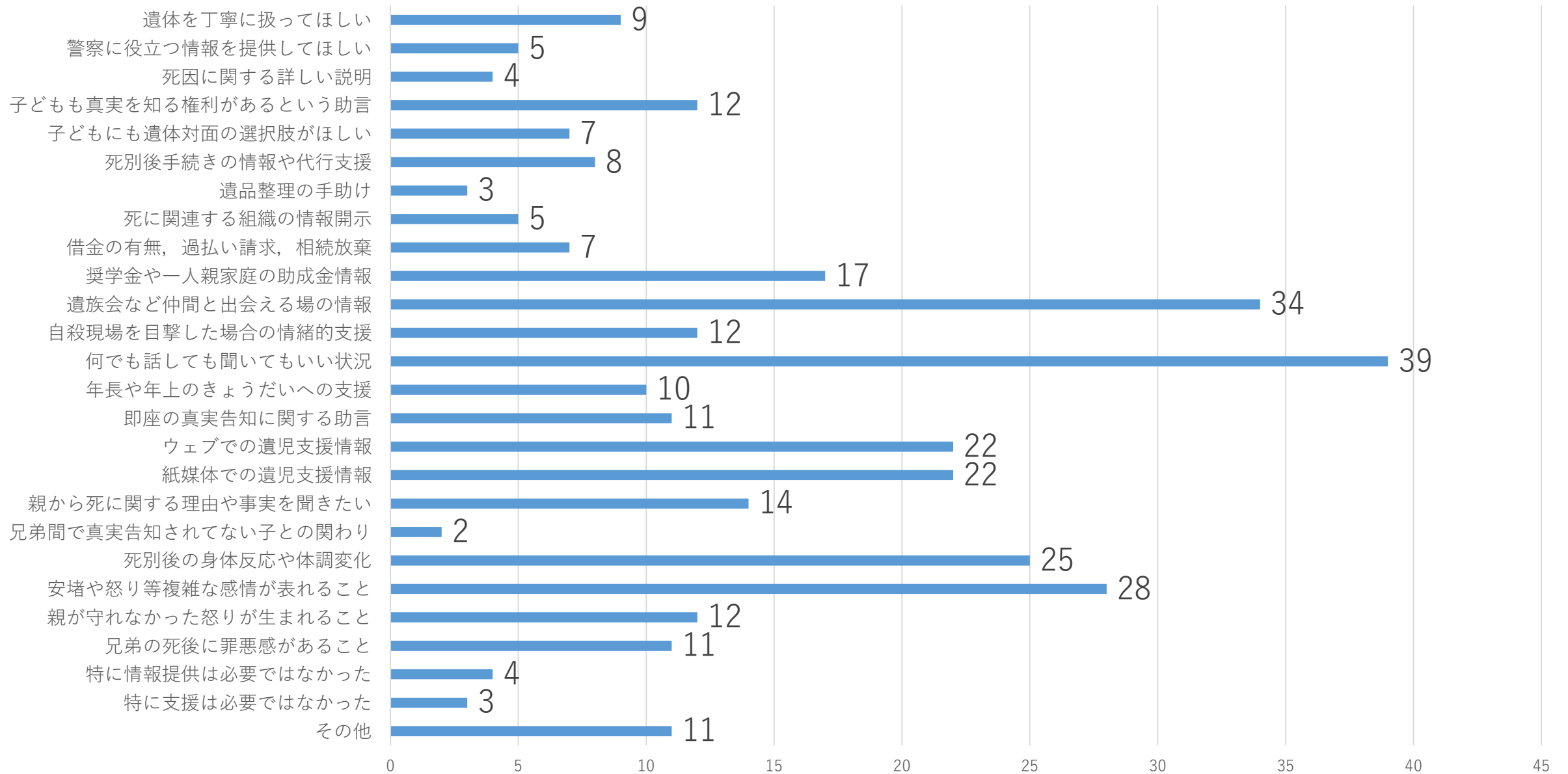
- 「親や親戚から口止めされた」と回答した人が最多の25名
(35.2%)
- 「大人が自分の感情や不安を聞かない」と回答した人が21名
(29.6%)
- 「周りの大人から可哀想な目でみられた」と回答した人が20名
(28.2%)

« 「子どもを亡くした親の悲嘆が激しく、自分の感情を抑圧していた」人の特徴 »

①10歳以上が約9割，10歳未満が約1割

②親を亡くした人が約3割，きょうだいを亡くした人が約7割

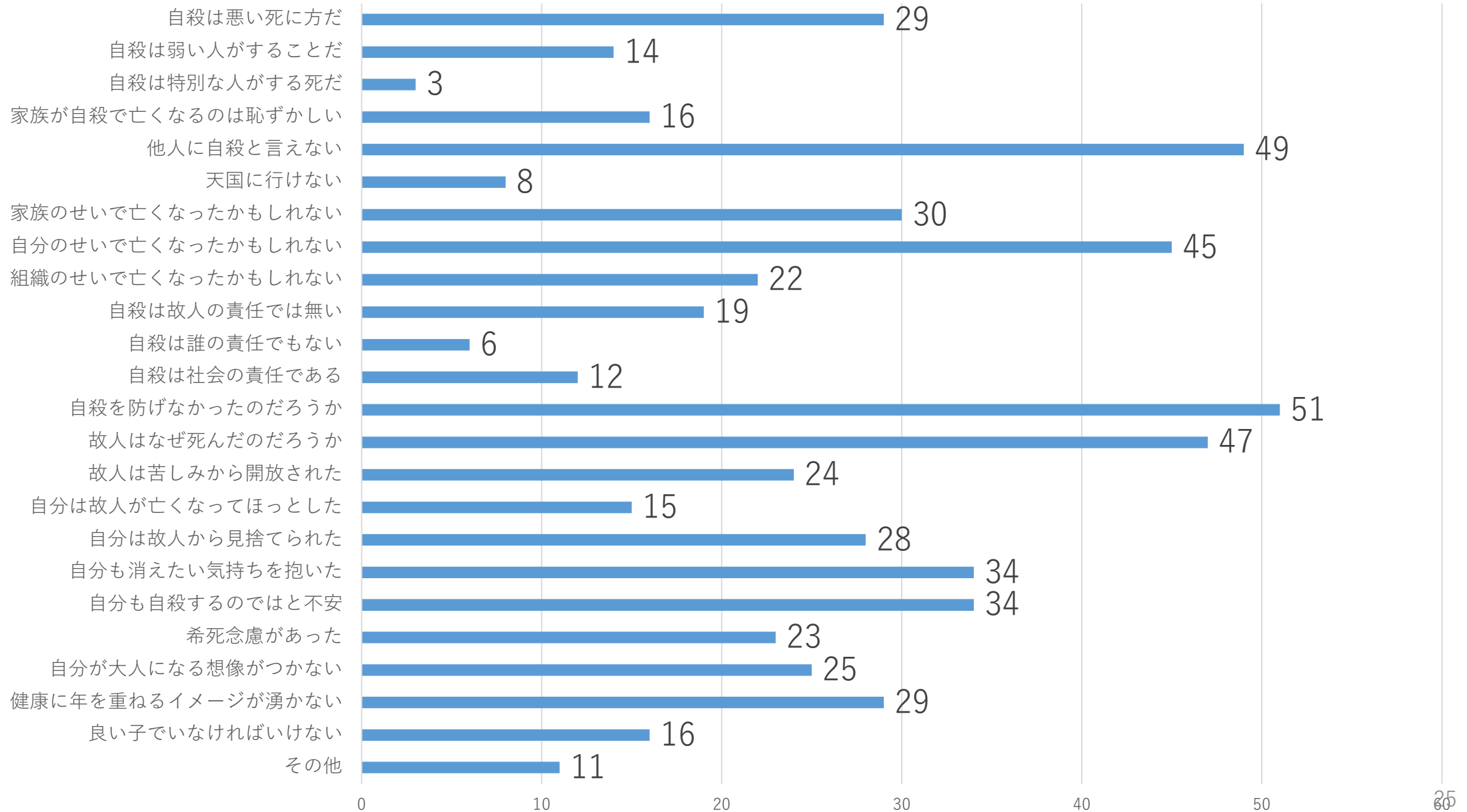
B-21. 死別後にご自身はどのような情報提供や支援を望まれていましたか（複数回答）



B-21の上位3項目

- 「『何でも話してよい，聞いてよい』と伝えて欲しい」と回答した人が最多の39名（54.9%）
- 「遺族会など，仲間と出会える場があるという情報」と回答した人が34名（47.9%）
- 「親の死に対する悲しみだけでなく，安堵や怒りなど複雑な感情が生まれること」と回答した人が28名（39.4%）

B-22 自殺を知ったあと、以下のような思いはありましたか（複数回答）

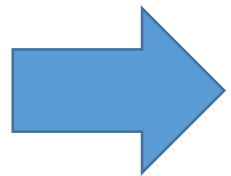


B-22の上位5項目

- 「故人の自殺を防げなかったのだろうか」と回答した人が51名 (71.8%)
- 「他の人に自殺だとは言ってはいけない／言えない」と回答した人が49名 (69.0%)
- 「故人はなぜ死んだのだろうか」と回答した人が47名 (66.2%)
- 「自分のせいで故人が亡くなったのかもしれない」と回答した人が45名 (63.4%)
- 「自分も消えてしまいたい気持ちを抱いた」と回答した人が34名 (47.9%)
- 「自分も自殺で死ぬのではないかという不安」と回答した人が34名 (47.9%)

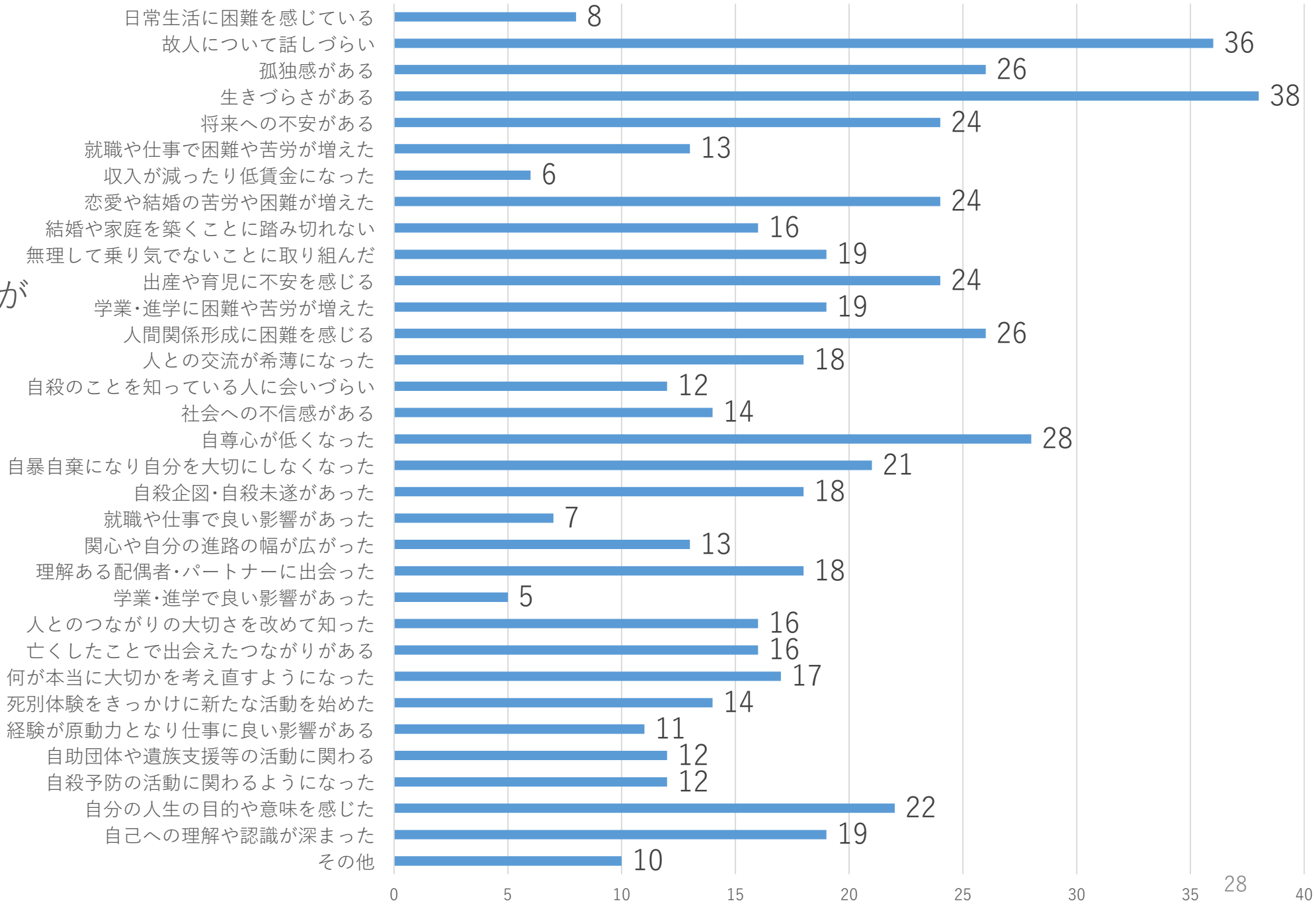
B-22で、さらに注目すべき点として、

- 「自殺は悪い死に方だ」 29名
- 「自殺は弱い人がすることだ」 14名
- 「自殺は特別な人がする死だ」 3名
- 「家族が自殺で亡くなるのは恥ずかしいことだ」 10名
- 「自殺した人は成仏できない（天国に行けない）」 8名



**子ども自身も社会的な偏見の影響を受け、
上記のような思いを抱いていることを示している**

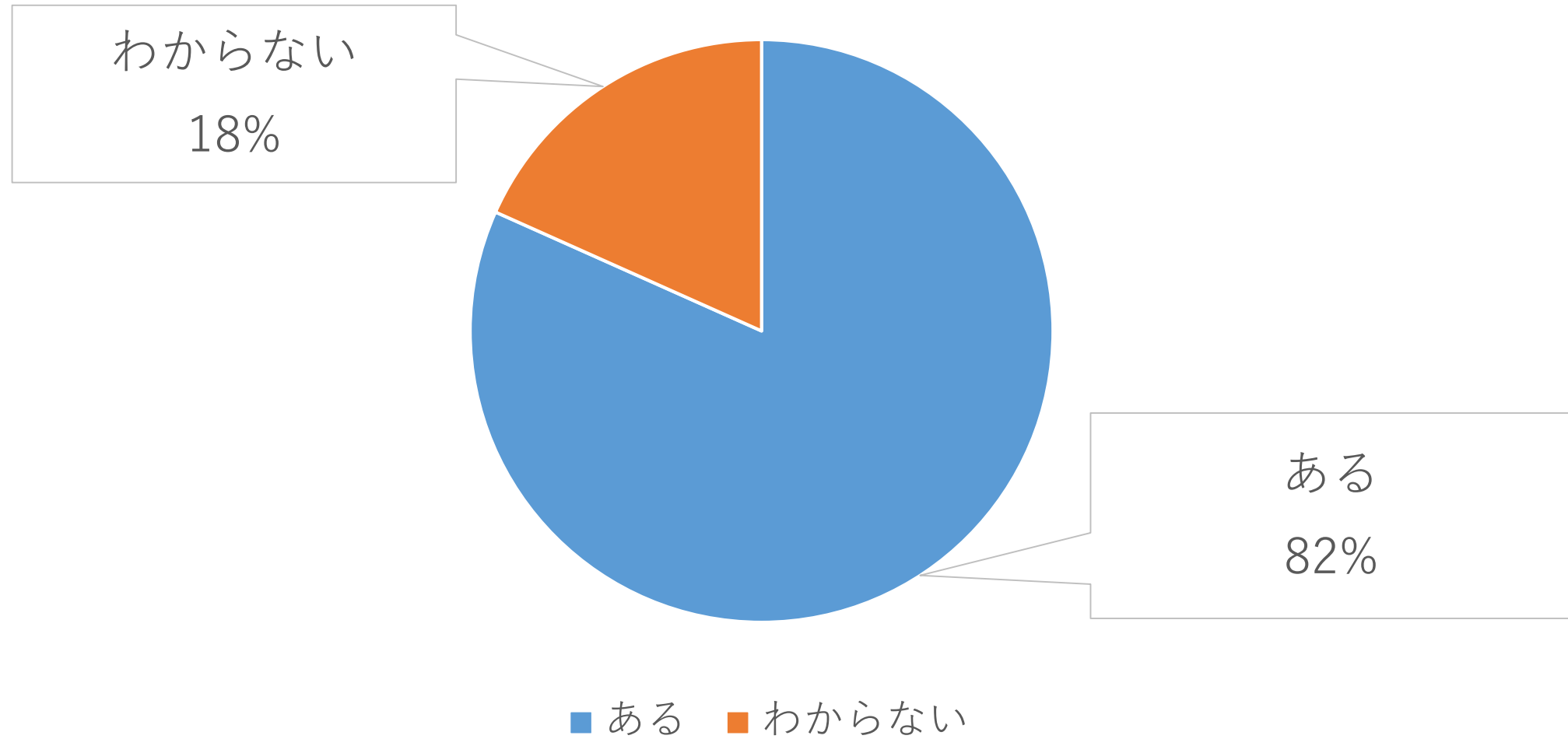
B-23. 死別体験が
現在に及ぼして
いる影響が
あれば、教えて
ください
(複数回答)



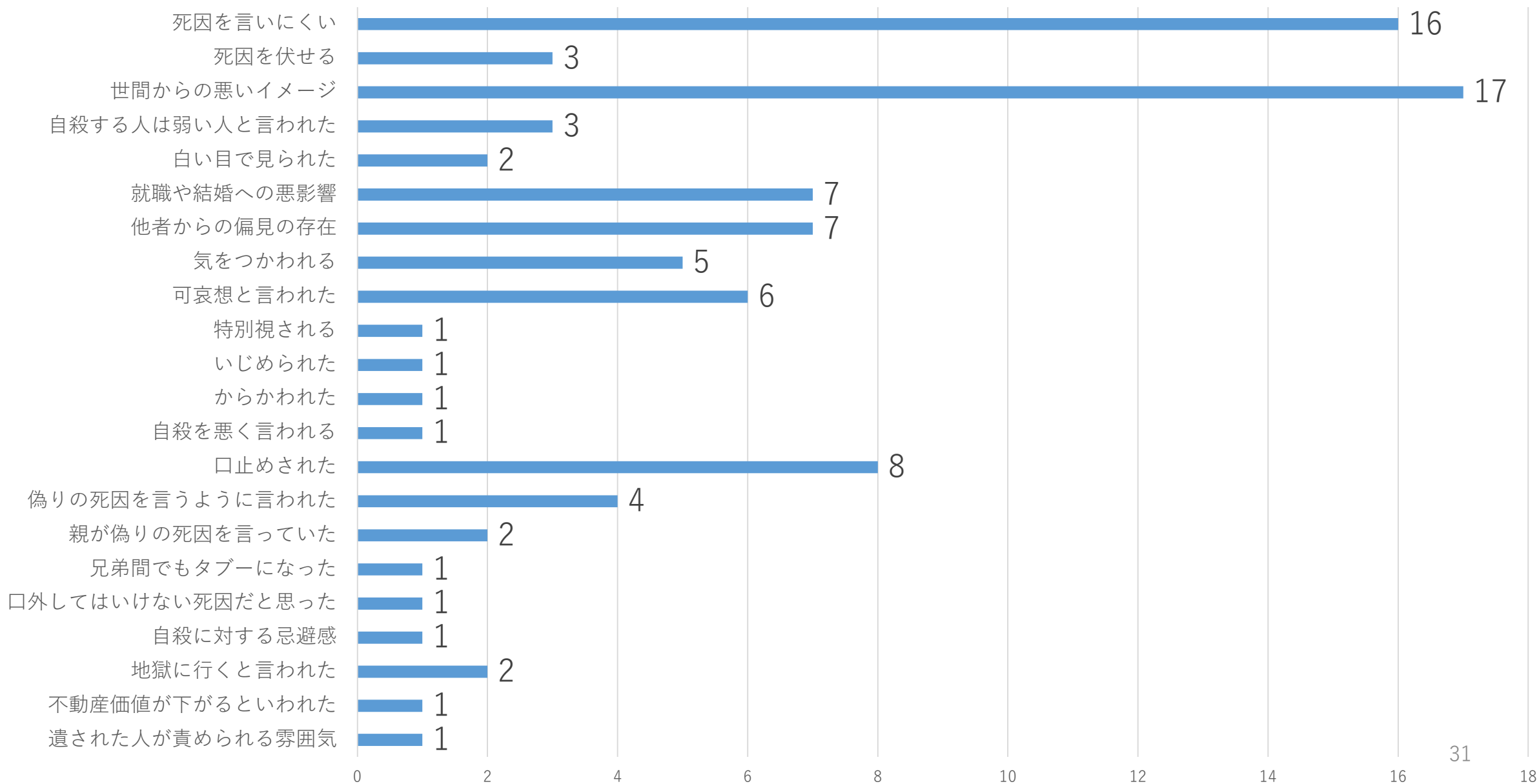
B-23の上位5項目

- 「生きづらさがある」と回答した人が38名（53.5%）
- 「亡くなった家族について話しづらいつ感じている」と回答した人が36名（50.7%）
- 「自尊心が低くなった」と回答した人が28名（39.4%）
- 「孤独感がある」「人間関係を築くことに困難を感じている」と回答した人がそれぞれ26名（36.6%）
- 「将来への不安がある」「恋愛や結婚の際に困難や苦労が増えた」「子どもを産んだり・育てたりすることに不安を感じる」と回答した人がそれぞれ24名（33.8%）

B-24. 私たちが生きるこの社会には、自殺への偏見や差別はあると思いますか？



B-25. 自殺への偏見や差別が「ある」と回答された方はその内容と理由を教えてください（自由記述）



B-25の上位3項目

- 「世間からの悪いイメージ」と回答した人が17名（約29.3%）
- 「死因を言いにくい」と回答した人が16名（27.6%）
- 「口止めされた」と回答した人が8名（13.8%）

《「世間からの悪いイメージ」として、主に挙げられたもの》

- 落伍者のイメージがある
- 自殺に至る背景を知らず、身内の責任になることが多い
- 自殺で亡くなったことを言いにくい社会
- 自殺は悪いこと
- 生きることから逃げないで欲しい
- 自分や身内は自殺しない、特別な人がするものだという

総合考察

- 「親や親戚から口止めされた」という回答が35.2%であったことから、子どもたちも偏見と差別の影響を受けている実態が垣間見えます。
- 今後の情報提供や支援において最も求められていたのは「『何でも話してよい、聞いてよい』と伝えて欲しい」でした。
- 周囲の大人が無意識に持っている差別的な価値観が子どもに伝わる「負の連鎖」が生じていることを自覚し、私たちの代でその流れを終わらせる時が来ています。
- そのためには、私たち一人ひとりが内なる偏見や差別の意識に気づき、自殺をタブーとせず、自殺に対する否定的な先入観を解消する必要があります。